

資料2

食形態段階表

愛知県立大府ものき特別支援学校

区分	摂食機能の発達段階	食物形態 (①硬さ ②大きさ ③まとまり)	調理における留意点	備考	
初期食Ⅰ 弱 ↑ 飲み込む力 ↓ 強	・口唇は単純閉鎖で、捕食の力は弱い ・口角はほとんど動かない ・舌は前後運動 ・頸(あご)は単純上下運動 ・処理は短時間 ・えん下は乳児様えん下が見られる	<p>＜プレーンヨーグルト状(粘液状)＞ ①口に入ったらそのまま飲み込める状態で、粒や繊維が残っていない滑らかな形状 ②絹ごし目:50メッシュ ③寒天などのとろみ、牛乳、スープが必要</p> <p>＜カスタードクリーム状(ペースト状)＞ ①水分量が多く、適度な粘性があり、平らなスプーンにのせても流れ落ちない形状 ②裏ごし目:30メッシュ ③寒天などのとろみ、牛乳、スープが必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンからぼつとんと落ちるくらいのやわらかさ、もしくはスプーンで混ぜたときすじが残る程度のやわらかさ（あまりゆるくなりすぎないよう配慮） ・粒がないなめらかな状態でとろみにも配慮 ・適度の水分（分離しないこと） ・主食はかゆをペースト状にする（形状例:ヨーグルトなど） ○辛いもの、すっぱいもの、えぐみのあるもの等はブリクサーにかけ過ぎない ○魚のパサつきは練り食材、肉の硬さはペースト食材など、対応できる素材を使用したり、加熱時間を長めにしたりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理法の原則として、ミキサー後に裏ごし器に通すことが基本 ・いろいろな食品の味を経験するために、素材別・料理別に仕上げる工夫が必要 ・主食:おかゆ・パン・麺類の裏ごし ・主菜、副菜:肉・魚・卵・野菜類のペースト、コンポート、ヨーグルトなど 	
中期食Ⅰ 弱 ↑ つぶす力 ↓ 強	・口唇はより強く閉鎖でき、しっかりと捕食できる ・口角はえん下時に動く ・舌は上下運動 ・頸は上下運動から側方運動に移行 ・押し潰し処理ができる ・えん下は成熟えん下に移行	<p>＜マッシュボテト状＞ ①絹ごし豆腐の硬さで、舌で押しつぶせる ②裏ごし目:12メッシュ ③口の中でバラけないようにとろみ、牛乳、スープなどで調整する</p> <p>＜マッシュボテト状＞ ①絹ごし豆腐の硬さで、舌で押しつぶせる ②裏ごし目:9メッシュ ③口の中でバラけないようにとろみ、牛乳、スープ、たれなどで調整する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舌で押しつぶせるくらいやわらかく煮た野菜等、形がある ・とろみに配慮 ・ミキサーを使って形態を調整する場合は、かたい粒(ベーコン、ひき肉、かための野菜など)がない、なめらかな状態で、角が立つくくらいの軟らかさ（初期食よりかため） ・主食は舌で押しつぶせるやわらかさのかゆ状（形状例:6分粥、全粥）（形状例:プリン、卵豆腐、絹ごし豆腐、かぼちゃの煮物、熟れたバナナなど） ○全体に軟らかく調理するために、長時間煮る、蒸す、圧力鍋を使用するなどの調理方法を用いる ○軟らかさ、まとまりに適した食材を用いる 	<ul style="list-style-type: none"> ・移行期にある場合は、それぞれの段階別の主食、主菜、副菜の一部を組み合わせて調整する ・主食:6分粥、全粥、パン粥、麺類のくたくた煮 ・主菜、副菜:テリーヌ、煮こごり風、野菜の軟らか煮、コンポート、プリンなど 	
後期食Ⅰ 下手 ↑ かむ力 ↓ 上手	・口唇は突出・牽引、変位などの複雑動作に移行 ・処理時に口角が偏位、活発化 ・舌は上下運動から側方運動に移行 ・頸は側方運動が増え、そしやくの動きができる ・舌による移動処理ができる ・えん下は成熟えん下	<p>＜かぼちゃの煮物状＞ ①親指と中指で軽くつぶせるくらいの軟らかさで、舌ではつぶせない形のあるもの ②一口大以下の均一した大きさ ③口の中でバラけないようにとろみなどで調整する</p> <p>＜煮込みハンバーグ状＞ ①箸で切れる程度の硬さ ②一口大の大きさ ③パサパサしたものは、牛乳、スープ、たれなどで調整する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・舌で移動できるようなまとまり・大きさ ・歯茎で押しつぶせるくらいのやわらかさ（形状例 大根の煮物、柔らかい果物類など） ・この硬さにできないものは、前段階の調理方法を用いる 	<ul style="list-style-type: none"> ・とろみを配慮 ・食材の大きさは1cm角以内 ・主食はかための粥状から軟飯 	<ul style="list-style-type: none"> ・素材をみじん切りにしない（食べ物の硬さ、大きさ、形が解からないので丸呑みになりやすい） ・捕食やかむ練習（前歯や奥歯を使用する練習に、茹でた野菜類をスティック形で提供） ・主食:全粥、軟飯、牛乳に浸したパン、軟らか煮の麺類 ・主菜、副菜:軟らかハンバーグ、ほぐし魚のあんかけ、野菜類のシチュー、コンポート
後期食Ⅱ 上手					
普通食 そしやくの力	・口唇は複雑動作ができる、さらにしっかり捕食できる ・舌は側方捻転運動ができる ・頸は臼嚙の動きができる、さらに時間をかけてしっかり咀嚼処理できる ・えん下はよりしっかりした成熟えん下	・一般の食事（普通の食事）よりも、やや軟らかめ	<ul style="list-style-type: none"> ・歯で咬み碎き、すりつぶせる大きさを配慮 ・硬い肉や繊維の多い素材は噛めずに丸呑みになるため、調理方法の工夫が必要（一口程度の物は噛みきれないほど硬いものを除ければ、ほぼ普通に食べられる） ・できるだけ一般食（普通の食事）に近い形状にする 	<ul style="list-style-type: none"> ・弾力がありつぶしにくい食品 ⇒ かまぼこ、ちくわ、ハム ・食塊がつくりにくく飲み込みにくい食品 ⇒ りんご、梨 ・主食:ごはん、パン、麺類 ・主菜、副菜:照焼、玉子焼、野菜類の煮物、果物 	